

[39]

書

名

松本

年

城

代

五

成立(内容)

戸

田

規

格

解説共

家

文

書

數

量

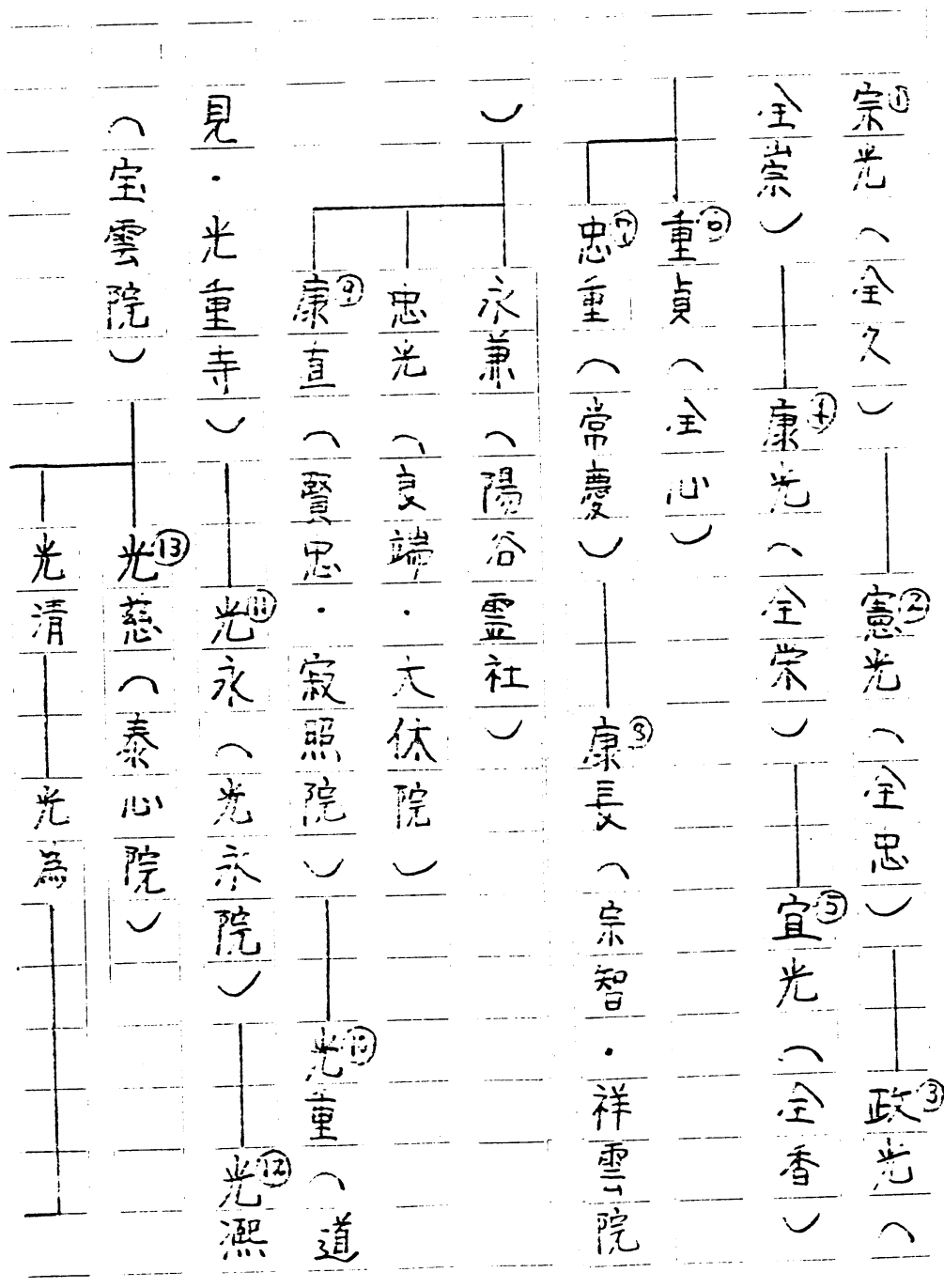
番

号

松本城主戸田家文書

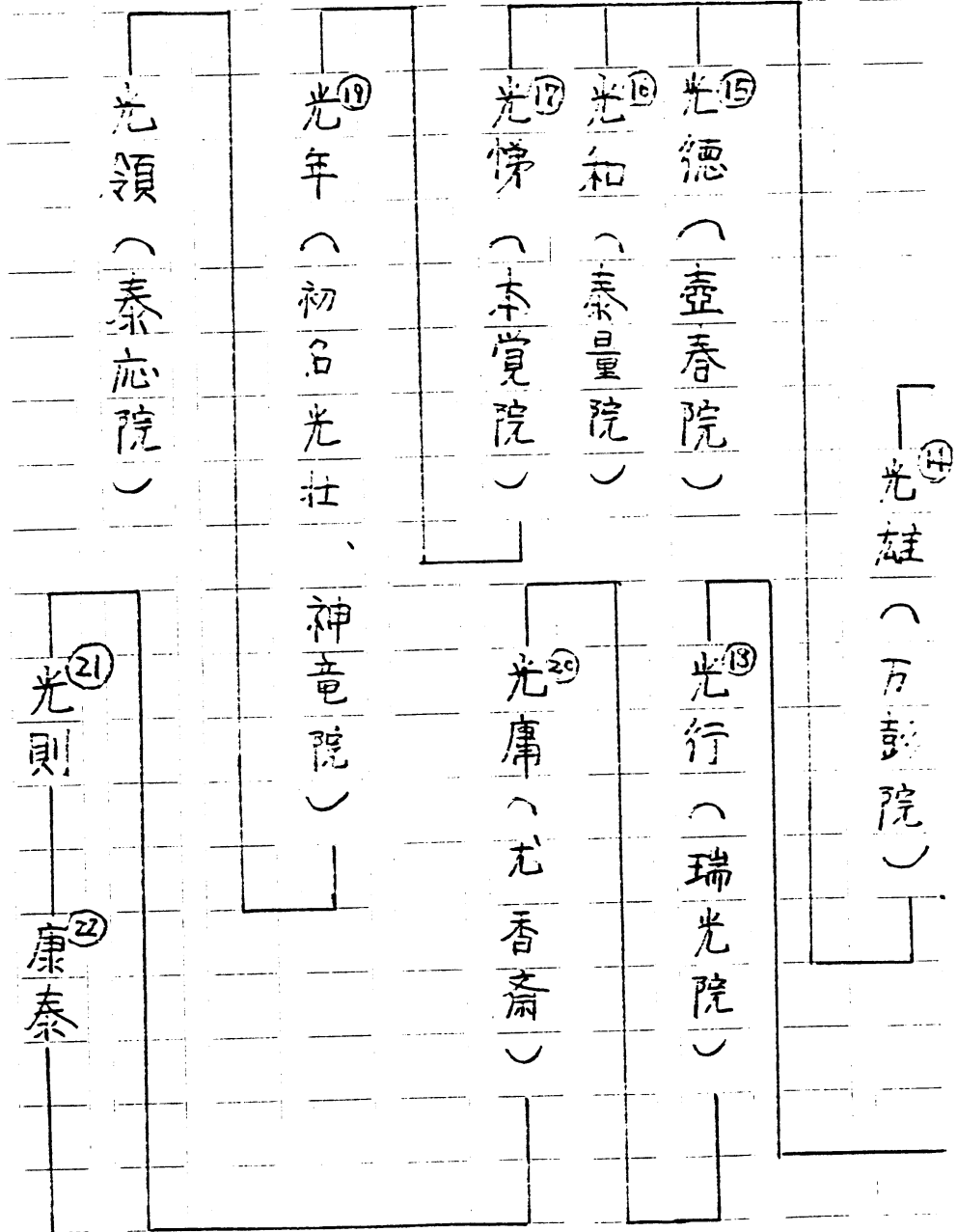
本文書は旧松本城主戸田家に伝来したもので、昭和五三年七月当研究所が東京の某古書肆より購入した。数量は一四二点（三二五冊・六巻・一四六通、計四七七）である。まずはじめに、戸田氏の家系について簡単に述べておく。『寛政重修諸家譜』によると戸田氏は、公家の三條家庶流正親町三條家より分かれたとしていす。すなわち、正親町三

条家——代権大納言公治の嫡子右中將実興が
 故あつて近江国に寓居し、その子実光が三河
 国渥美郡田原に移住して母方の苗字である十
 田を名乗り、後戸田に改めたという。この実
 光の子が彈正左衛門宗光に当たるとあるが、
 『寛政重修諸家譜』の編者はこれに疑問を持
 つて註記している。しかしここでは出自につ
 いて云々することは避ける。次に宗光以降の
 略系図を示しておくが、参考のため法号・院
 号を（）内に入れた。



財團 德川黎明會 德川林政史研究會 館

年
月
日



野田 徳川黎明會

徳川美術史研究所

康保²³ — 康英²⁴ || 英冠²⁵

初代宗光は三州渥美郡田原に城を築き、領
 主として東三河に勢力をもち、子孫は駿河の
 今川氏や三河の松平氏に属していた。殊に、
 松平氏とは婚姻を結んで浅からぬ関係にあつ
 たため、松平氏が徳川氏となつて政權をとる
 までの次第に領地を加増されていった。徳川
 家康の関東入国（天正一八年、一五九〇年）
 に際して康長は、武州深谷で一万石を領する

年
月
日

財團 徳川黎明會 徳川美術史研究所

に至り、関ヶ原合戦後の慶長六年（一六〇一）には上野国白井二万石の大名となった。以後、下総古河、常陸笠間、上野高崎を経て元和三年（一六一七）信濃松本へ入封し、七万石を領するまじになり、更に松平の称号を与えられ、譜代大名の中でも特別な待遇を受けた。康直以降は、播磨明石、美濃加納、山城淀、志摩鳥羽を経て、光慈の代享保一〇年（一七一五）に再び信州松本に転じて、その後転封はなかった。なお領知高は、光永が家督

を相続した寛文八年（一六六八）に一万石を
分知したので、この年以來六万石となった。
以上、戸田家系について略述したが、次に
本文書の概略を述べる。この文書は三つの木
箱に収められているが、箱には「御家譜料」と
記した紙を貼って、それぞれ壺・式・参と
番号を附している。また各史料には整理番号
（明治以降のもの）がつけられており、それ
には「四十二函・四十三函・四十四函」とい
う箱別の記号もある。このことから、少なく

とも箱だけで四〇以上存在したことが窺知される（しかし、現在では他の箱の史料については所在が不明である。なお、松本市にある日本民俗資料館に戸田家より寄託された史料が若干あるが、これには箱がない）。さて、「御家譜料」とは、戸田家の家譜編纂の史料という意味である。従って本文書は、家譜類と家譜作成のもとになった史料・記録類の写本が殆んどで、これが大きな特色となつてゐる。

ところ、大名家では文化・文政の頃、藩
 史や伝記をまとめている例が多く見られるが、
 松本戸田家でも文政と天保期に家譜の編纂を
 行なっていることが知られる。従って、本文
 書に含まれる史料・記録類の写本は、多くこ
 の時期に成立している。松本藩の修史事業の
 詳細はあまり明らかなではないが、藩では「譜
 局」を置き、木沢入淵・鈴木重諧らを経員に
 任じて編纂に当たらせたと思われる。この「
 業」の目的がどこにあったのか明確ではないが、

年
月
日


財団法人徳川黎明會
 徳川美術史研究所
 徳川林政史研究所

戸田家の出言を定証的に説明すること三言指
したと思われる。その理由は、鈴木重譜が戸
田家の旧跡地である三河方面に出張している
ことも一つであるが、残存史料のうち戦国期
の戸田家関係のもうが非常に多いことによる。
前述したように、寛政重修諸家譜の編者が、
戸田家呈譜に記された出自について疑問を投
げ掛けたのであるが、これに戸田家側が刺激
されて出自の正しいことを証明しようとした
のではなからうか。結局松本藩では、戸田氏

が正親町三条家の分流であることを最後まで
 主張しているが、この修史事業の結果編纂さ
 れたものは、「本氏戸田系譜 稿本」(番号
 一七・一八)ではなかつたかと思われる。
 以上述べたような修史事業の^{過程}精査で作式さ
 れた多くの史料は、内容的にはかなり重複す
 る部分が多いが、旧跡地の寺院の棟札など
 写しをはじめ、古文書の影写本の作成など、
 基礎的な作業もなされており、編纂事業の実
 態^をかなり具体的に知ることができるところで貴

年
月
日

財団法人徳川黎明會
 徳川美術史研究所

重である。また明治期の家譜の追加もあって、明治初期までの戸田家の家譜は、揃ってあり、当家の編年の事蹟は一応この文書で知ることができるといえる。

最後に目録作成方法について若干記しておくと、すでに述べたように本文書は、家譜作成の基礎史料が大部分であるため、あえて項目をたてて分類することはしなかつたが、およそ系図類・家譜・蒐集史料という順で配列した。また一紙物はそれぞれ写本作成過程の都

年
月
日

財団法人 徳川黎明會
徳川美術史研究所

合	等	に	よ	っ	て	い	く	つ	か	の	袋	に	入	ら	れ	て	い
た	の	で	現	状	を	く	ず	す	こ	と	なく	袋	ご	と	に	一	点
と	数	え	そ	の	中	の	史	料	は	細	目	と	し	て	記	し	た
昭	和	五	十	三	年	八	月	記		(文	責	松	平	秀	治)

書名

年代

成立(内容)

規格

数量

番号

戸田氏系図(藤原鎌足) 戸田宗光

本家系図 戸田氏 (宗光、光重)

戸田大系図 (藤原鎌足、戸田光和)

戸田氏系図 (鎌足、光重)

戸田系図 寛永年中撰 諸家大系図

寛永諸家譜

丁亥参考 寛永系譜

本家系不詳 本家累代譜 (宗光、光重)

官庫系

改選諸家系譜後編

本家系図 (天児屋根尊、戸田光徳)

貞享二年 八月二十八日

明和八年三月

文政七年十月写

文政十年写

文政七年写

文政の写

文政七年写

文政十二年写

康直まじり本家歴代譜を付す

寛永撰の本戸田家と介流二家の系図

本戸田家の寛永諸家譜

寛永十八年の口呈譜と先祖覚書の写

系図と光重まじり略伝を付す

寛政重脩諸家譜の写

本戸田家、大垣戸田家と分家三木家、宇野台戸田家と分家一家を載せる

卷七十二、七十四の戸田家(本家、宇野台、大垣)

系図写と改選諸家系譜後編卷四十五の戸田家(本家)を載せる

美

美

美

美

美

美

美

美

美

卷

卷

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

二

14

13

12

11

10

9

8

7

6

2

1

財団法人 徳川黎明会 蔵書目録用紙

書名	年代	成立(内容)	規格	数量	番号
本家系図 (光慈・光則) 本家譜 1 自宗光譜至光慈譜 2 光雄譜・光徳譜 3 光和譜・光悌譜 4 光行譜 5 光年譜 6 光庸譜 7 光領譜 8 光則譜 9 光則譜附録勤王戦史 10 康泰譜 本氏 戸田系譜 稿本 1. 弁言(光庸記)凡例、目次、引用書目		戸田家歴代の年譜 戸田家系譜と参考史料を附す	美美 半	十一 十一	16 15 17

書	名	年	代	成立(内容)	規格	数量	番号
	2 宗光と松寿院の系図						
	3 康長と光重の系図						
	4 光永と光熙の系図						
	5 光慈と光和の系図						
	6 光悌と光年 <small>の系図</small>						
	7 附録一 紋章・出自						
	8 附録二 御判物、奉書、官名目録、御一言目録 御朱印、伏見在番控書、御本丸御留 守控書、西丸御留守控書、大坂城 火災之節控書						
	9 附録三 古簡(諸種史料写)						
	10 附録四 古簡						
	11 附録五 年表、考異、補遺						
本 氏	戸田系譜 稿本			戸田家系譜と参考 史料を附す。前記同名 系譜より史料が多い	半	十四	18
	1 宗光と松寿院の系図						
	2 康長と光重の系図						

財団法人 徳川黎明会 蔵書目録用紙

書

名

年

代

成立(内容)

規格

数量

番号

3 光永と光熙の系図

4 光慈と光梯の系図

5 光行と光領の系図

6 附録 序
每言(光庸記)凡例、目次、
引用書目

7 附録一
紋章、出自

8 附録二
御判書、奉書、官名目録、御一言
目録、松本村付、明石御朱印、明石村付

9 附録三
加納御朱印、加納領知目録、淀御朱印
淀領知目録、鳥羽御朱印、鳥羽領知目録、
松本御朱印、松本領知目録、
二連本全久院御朱印、伏見在米倉

提書、御本丸御留守提書、西丸御
留守提書、大坂城火災提書

10 附録四
古簡(諸種史料等)

11 附録五
古簡、松本黒印

12 附録六
年表、考異、補遺

13 附録七
渡辺平内右衛門覚書、
寛永永王譜、歴世碑文

14 附録八
花押、黒印、長興寺過去帳、平等院
過去帳、親元日記、開國雜記抄

財団法人 徳川黎明会 蔵書目録用紙

書名	年代	成立(内容)	規格	数量	番号
戸田系譜稿本 書継	寛政十一年十二月	前記系譜の書き継ぎ、明治 光行が呈した戸田家系譜	半	二	19
寛政系譜	寛政十一年十二月	右と同じもの	美	一	20
寛政呈譜	寛政元年十二月 十二月 寛政七年写 (文政七年写)	寛政元年幕府への呈 請作政要領と諸家 への向合せ覚 寛政呈譜の疑問箇所 に付箋、その答を記す。 典拠史料をあげた光重 まごの系譜も附す	美 美	一 一	21 22
寛政譜附考問答	天保二年五月	典拠史料を記す	美	一	23
寛政譜附考論定	天保三年	寛政譜の疑問箇所を 藩の老中らが協議して 決定したとき、光見	美	一	24
天保校訂系譜 (宗光、光領)	天保末	典拠史料を記す	美	二	25
天保校訂系譜 移本 (宗光、光重)	弘化三年九月	光則の呈譜	美	三	27
系譜別帳 (宗光、光則)	弘化三年九月	光則の口呈譜、前記 系譜別帳を簡略にした もの	美	一	28
弘化呈譜 (宗光、光則)	元治元年十二月	光則の呈譜	美	一	29
系譜書目録 (光重、光則)		永祿以前	美	一	30
三條家系図 (用院公季、実福)		宝暦までの宇都宮、戸田家 とその分家、中継ぎ、大垣 戸田家の寛政文までの系図	巻	一	3
宇都宮・大垣両家系譜			美	一	31

書名	年代	成立(内容)	規格	款	冊	番号
戸田左門氏西家譜(宗光と氏定)	享保年中	大垣戸田家の系図で、 引者後半の系図と同じ。 本戸田家の分家、光永、 三男、光規より	美	—	—	32
戸田播磨守光規系譜(光規と光深)	安永七年 文政十年写	戸田分統の備後守家、 豊前守家、半平家、 三左衛門家、半五郎家、 教馬家、六郎兵衛家、 可十郎家等の系図	美	—	—	33
戸田諸家系図	文政九年写 天保末	光重三男、光直の譜と、 光重四男、光澄の家(宗光の 系図) 又、光直親の子孫、 三百依の旗本、一様系図、 戸田勇太郎直昭の 系譜	美	—	—	35
文珠北方両家系譜	天保年中	戸田政光弟、佐十郎(宗光 (五光)の子孫系図、 三河に土着の家)	美	—	—	26
戸田道三進家系譜(鎌足と重道)	宝永二年	光重の年譜	美	—	—	36
光重寺様御事実綱領		光永の年譜	美	—	—	37
光永院様御事実綱領		光通(光重)の家督 相続関係を記す	美	—	—	38
宝雲院様御事実綱領		光慈の年譜	美	—	—	39
泰心院様御事実綱領						

財団法人 徳川黎明会 蔵書目録用紙

書名	年	代	成立(内容)	規格	数	番	号
泰心院様御事実綱領 <small>安保泰任 寛吉</small>			光慈に關する年譜	美	—	40	
万彭院様御事実綱領			光雄の年譜	美	—	41	
壺春院様御事実綱領			光徳の年譜	美	—	42	
泰量院様御事実綱領			光和の年譜	美	—	43	
本覚院様御事実綱領			光悳の年譜	美	—	44	
瑞光院様御事実綱領			光行の年譜	美	—	45	
神竜院様御事実綱領			光年の年譜	美	—	46	
光庸様御事実綱領			明治五年迄の 光隆の年譜	美 半一	—	47	
泰心院様御事実綱領			光領の年譜	半	—	48	
光則様御事実綱領			明治六年六月迄の 光則の年譜 但一冊欠、文久二・三 年を欠く	美 半三 四	—	49	
類取永系譜		文政七年編	各代と其の兄弟の年譜 を史料別に記す	美	—	50	

1. 目錄・凡例・類取永書目・系圖(公治と光三)
2. 出自、公治と政光

書名	年代	成立(内容)	規格	数量	番号
3 康光と宜光					
4 重貞					
5 康長上					
6 康長中					
7 康長下					
8 忠光					
9 康直・光重					
類聚系譜外編		類聚系譜に載せた以外の資料や分家の系譜を収める。	美	三	51
1 凡例 書目					
2 戸田家本家、末家系図					
3 宗光と光重の年譜		出自と宗光と光重までの年譜	美	一	52
戸田系譜附考	文政七年写	本見文八年迄の年譜	美	一	53
松平丹波守先祖由緒家伝略記	文化五年五月写	宗光より光重までの年譜で、身字の系譜と子孫の系譜を併記し、木沢大淵の附録を付す	美	一	54
先祖由緒家伝略記					

書	名	年 代	成 立 (内 容)	規 格	致 量	番 号
藩翰戸田譜		天保二年正月写	新井白石の藩翰譜、松本、宇和宮、大垣、戸田三まゝの写	美	一	55
藩翰譜続篇書継		文政十年写	光行より光則(明治四年)までの年譜と系図	美	一	56
戸田由来諸説要案記		天保三年写	新井白石の著藩翰譜、松本、宇和宮、戸田家の写	美	一	57
見聞金正記		文政九年写	明暦元年より寛文八年の光重の年譜	美	一	58
雑事実記	1. 内番、馳走などの公役、手伝音請、官位、 2. 園給因、香奠祓上、夜習、松平杯号など 3. 御目見、家習、杯号、朱印など 4. 奥所通行手紙や家臣の書留、 5. 手限肉俵など		光重の光緒の項目別編年記事	美	三	59
雑事実記後編		天保元年四月写	カニ上野両山ウミとやまの録、 内への届出など種々の記録 奥平村関係の記述、 所領などの他、預所や 領内関係の種々の記録 各代の記事について 文献を引用して考証 したものの	美	二	60
雑事実記続編				美	二	61
家系校正余録				美	十七	62
1 宗光君事記考						
2 全久(宗光)君事記考						
3 全栄君事記考						

財団法人 徳川黎明会 蔵書目録用紙

書名	年	代	成立(内容)	規	格	数	巻	番	号
4 全学木君事記考、丁未八月記、宍主人問答など									
5 吉田城主考		天保二年起草	城(吉田) 牧野・戸田氏に關する記録を集成したもの						
6 古簡考									
7 全香君事記考									
8 全心君事記考、尊諱考、宗智君事記考									
9 宗智君事記考 ^(考) 、大休(忠)君事記考、光重手君事記考									
10 宗智君事記考、叔慎君事記考									
11 宗智君事記考									
12 宗智日君御邊事									
13 片宮(今宮)兩祠考、実光君事記考									
14 氏一君事記考、文龜元年事情考稿、綱光君事記考									
15 永目君事記考									
16 由志光院事記考、本立寺事記考(ともに寺院)									
17 光重まごの年譜と補遺									

書名	年	代	成立(内容)	規格	致	冊	番	号
累世御逸事			各代、年譜に表付 け史料を載せし	美	三			63
系譜便			各代に關する記事と その典故史料を	美	五			64
1 全久君御逸事、全忠君御逸事、全宗君御逸事								
2 全崇君御逸事、全香君御逸事								
3 全心君御逸事、常慶君御逸事								
4 共武君御逸事、陽谷君御逸事、良端君御逸事								
5 賢忠君御逸事、道見君御逸事								
1 出自、姓氏概考、系譜、紋章 一色氏、宝幢君、玉宗君、実興君、実光君								
2 宗光君、実光君、政光君、康光君 宜光君								
3 重貞君、忠重君、康長君、康直君 光重君								
4 永兼君、忠光君、妙仙君、花慶君(貞月君) 智勝君、歴世夫人(側室附)、御連枝								
5 御同族、旧地、由緒寺社、雜考								
松平河内守光通親族書目		元禄十五年五月		美	一			65
戸田大膳光規親族書		元禄十五年五月		美	一			66
寛政度并弘化二年御達		文化七年	寛政元、弘化二年の 呈請に關する幕府 の達 公儀より呈請の内容 に關し下向とりの答など	美	一			67
文化度御尋一件		文化七年		美	一			68

財団法人 徳川黎明会 藏書目録用紙

書名	年代	成立(内容)	規格	数量	番号
譜局年表	天保二年三月	天明十三年(寛永九年)の戸田家年表など	美	一	70
家譜料年表 (才冊欠)		永正元年(文政十年)までの戸田家關係の年表、奥板史料を記号で示す	美	五	69
御家譜料書目以呂波分		戸田家家譜作成に準じた史料名をいづは別に記す	美	一	71
天保譜料 稿本		各代の記事へある史料を字したもの	美	八	72
1 実興君、実光君					
2 全栄居事記考料					
3 宗智君御事実考料					
4 宗智君事記考					
5 宗智君事記考 (大坂冬陣)					
6 宗知日君事記攷 (大坂夏陣)					
7 光源院殿御事実考料					
8 年表 (文安元年(元和九年)、河和戸田氏考料)					
譜料	文政十年	戸田家譜の資料として、この時代の史料の字したもの	美	二	73

財団法人 徳川黎明会 蔵書目録用紙

譜局筆談雜記

書

名

年

代

成立(内容)

規格

数量

番

号

1 国史鈔録等

2 せめて話若干抄出、国史抄録
明良采範倭編抄出等

3 浴国寿友話抄出、明良采範抄出
武家高名抄出

4 帳中秘笈、秘書千目録
葵御紋考

5 家忠日記原本抄録等

6 諸国廢城考、御長家譜要記抄出
常州並向土州高崎同白井城主記
全尾居事記考、參陽史録抄出

7 甲斐国志抄、公陽史録抄
榊原忠次附屬之不審、大垣向答

8 天保譜紋五千稿、葵家舎史疑
親元日記、石川正西聞見集抄等

譜局雜算糸

1 竟海院花慶君御位牌并御石碑御再建之事
及之事、牛込多聞院香雲院殿御石碑之事等

2 林監物所蔵二連木全久院事記、空雲院
様御遺墨之中抄出等

3 大休院殿御葺葺礼三次書、諸家知譜
独記安住氏土御門昭系

天保七年

天保三、六、九年、松本と
江戸在勤の鈴木重譜
との家譜に關する往録
文書等とものたもう。
諸史料抄などを含む

家譜参考史料
を載せり

美

美

八

十五

74

75

書名	年代	成立(内容)	規格	数量	番号
4 信州筑摩郡埋橋播州明石郡丹波寺二ヶ所 園其才書面、三州浪上村正田寺願一件 丹波入道全香様御葬地之儀御用書申立 候口上書 など 5 戸田家三系圖、松平丹波守家譜四 6 陽谷靈社棟札写 など 文化十下癸酉正月三州宝幢寺より寺修費願書 戸田日向守様衆へ向合々合之一件 など 7 宝雲院様御由緒書、信濃國松本侍付、 井田氏覺書、寛保元年松本城下旧記改帳 8 信保七年夏三月八日儀御檢約二行御割法御 9 改帳下抄紙上坊紙御減少之事 など 10 先祖由緒家信略記 諸士伝略 11 戸田三十五家略伝、花慶様御儀二付從巻 海院諸願一件正和、当御預所信州村々實加敷願書一件 12 高野山奥院護摩序谷御願所之因、泰皇一 院様御遠髪高野山御飲之節手合院留留板書 13 白石先生遺言御系譜 大照宮御系号被下京々 14 高野山御遠髪御飲御法事等之覚書并御願 祈願、高野山徳善院過去帳抄録、法名大 福寺古文書 15 水府垂絲大典(戸田譜)、玉露証諸抄 参行周帳毎年正月二日因承同名家御礼之次第など		家譜参考史料を 載せし	美	六	76
譜局雑抄					
1 犬追物、戸田銀次評家系、英武尼御 叙爵之儀京拜(向合覚) など					

財團 徳川黎明会 蔵書目録用紙

書名	年代	成立(内容)	規格	数量	番号
<p>奥平大膳大夫殿へ向合并答書、西丸様失 付諸家御堂一併分付 戸田総八中重因家系、列祖成績之覽明日記抄 近藤兵右衛門正業覽書など 視聽雜記(小里頼章覽書) 年表(至徳元年〜天保十二年) 二本堂正後入道覽書、小笠原家門葉天録 (藩翰譜(小笠原)) 空陸勝公君御事考安木 丁未事情考</p>					
<p>譜局業取書</p>					
<p>1 神尾公所藏御譜略、戸田六郎兵衛所藏御 系譜、光重公大坂御着行列、松平和泉守家譜 2 従先規賜御家号家々 本因御在世諸侯分限録 3 三ヶ寺住職名面、自光院殿由来并 御法事扣帳 4 奥平家伝、小笠原記 5 小笠原家譜抜書 小笠原家門葉天録 6 淀島羽御引渡之上使江被差出候御答書 板倉近江守様三申上使様方御尋書之写御答書之写 木田公所藏御家譜写 尾花氏蔵本諸家系譜写 7 親元日記、寛政院年代記 8 諸家系図(井上高岩忠書)など</p>		<p>家譜参考史料 を載せしもの</p>	美	十五	77

書名	年代	成立(内容)	規格	枚数	番号
9 仙寿山全久光国禪師語録、全久弥勒抄光三箇寺所蔵記録抄書など 寛永系四(序、不諭、茶例)					
10 公卿補任抄録、武家補任					
11 三河国古今城里地理誌、水野俊伝 三連木全久院上梁文など					
12 群書類從 三百四十 東国紀行					
13 田考余録抄 無庵遠書					
14 仙寿全久光国禪師語録、大塔記、古本書写 三枚橋城主松平周防守源公碑					
15 遠州三方原御合戦、豊臣秀吉出生家五小冊					
尾参宝鑑抄録 戸田氏の系譜及事蹟	文政十三年(享)	明治三十七年刊の尾参宝鑑の抄	美	—	78
御太刀箱入御奉書扣	寛政二年十一月	寛永永く文政の戸田氏宛老中奉書の写	美	—	79
御書物并御奉書之写	文化四年五月	永禄から寛永永までの家康書状と老中奉書の写	美	—	80
寄場札絵形		旗、纏、提灯などの絵、弘化頃の書加えあり	美	—	81
大休院様御葬地考 (絵圖を三點付)		戸田忠光の葬地に關する記事を集めた	美	—	82
(戸田忠光葬地覚書)		埋橋村の明細帳など忠光葬地に關する記事を集めた	美	—	83
田系世碑文 改本		康長く光懐の墓碑	美	—	84

財団法人 徳川黎明会 蔵書目録用紙

書

名

年

代

成立(内容)

規

格

致

量

番

号

神意院様 御葬式一件 (四面四枚付)

天保八年

光年の葬式関係
手譜等も収める。

美

—

85

瑞光院様 御葬式一件

天保十年

光行の葬式関係
墓誌の弁も収める。

美

—

86

泰心院様 御葬式一件 (四面外六枚付)

天保十二年

光領の葬式関係
墓誌等も収める。

美

—

87

神意院様 御逝去一件録

天保八年

光年死後、幕府へ
届出などの文書ままとめる。

美

—

88

光永院様 御遺物帳写

宝永二年

光永死後の遺物
分配、品物に記す
細録附屬とあり

美

—

89

光則公御鎧御着初御祝式次第

天保十四年
十一月

恒例の献上物ま図や解
説、臨時献上の図などを
記す。

美

—

90

献上物図集本

天保九年写

東海地方関係の古大
き、記録を編年に収
める。古文書は影写し
てあり。文治より安永
十五年まで。オ七(寛長
五年)を欠く。附録(補
遺)も附す。

美

—

91

古簡編年 (一冊欠)

天保九年写

東海地方関係の古大
き、記録を編年に収
める。古文書は影写し
てあり。文治より安永
十五年まで。オ七(寛長
五年)を欠く。附録(補
遺)も附す。

美

—

92

古簡雑載

稿本

文政年中

親元日記など戸田
家関係の記録、文書
をまとめたもの。

美

—

93

群書輯録

1 献備石燈籠銘、六茶三動化二付御伺書
林大学頭様、江多胡主未、益敬儀書付、
桂山三郎左衛門様、江多胡、玄茶持参、未付、
林大学頭様、江吉、江雨、古衛門持参、之、
帳、面写

文政年中

親元日記など戸田
家関係の記録、文書
をまとめたもの。

美

—

94

群書抄録

- 2 松平丹波守家略記、松平丹波守家譜略
奥本御家譜
- 3 松本領之内江戸石榎、明石榎小初成帳
文化調備考
- 4 諸秘録、三社御縁起
- 5 東觀音寺御判物之字、東觀音寺古証文之字
戸田六大夫家二有之書面写、中村左仲自筆
之覚書、市橋守君考
友忠御御継室考料、永正三年事信
- 6 戸田總兵衛其藏書寫、戸田藤五郎藏書寫
- 7 三州寺院日記、大沢山草創記
全又院之記、戸田六郎次系不圖、松本全又院之記
- 8 高野山平等院、御牌石御墓所因
高野山平等院、差出根御先祖御代々過去帳之字
三河公參候御活字之字、高野山軍書
- 9 播州用石月照寺事跡
- 10 御幼少物語
- 11 濃州悟春院開基之記
濃州照空寺開基之記
- 12 三州広忠寺開合覺見
勢州清涼院由緒

書

名

年

代

成立(内容)

規格

数量

番号

文政5天保

戸田家関係史料
の集成

美

十

95

財団 徳川黎明会 蔵書目録用紙

書名	年	代	成立(内容)	規格	数量	番号
<p>親元日記抄、今川記抄、張州府志抄書 筒井記</p> <p>1 本朝列傳、武家勳德記、大守軍要 武具覚、松平氏部類、三州松平家十八 家并廿四家之事、御譜代記</p> <p>2 井田丈左衛門所藏記録写、並藤氏所藏 之写、光源院様御事実、大垣城攻之振書 寂照院様御廟所之書付</p> <p>3 武徳大成記</p> <p>4 家忠日記増補追加</p> <p>5 享保通鑑抄録</p> <p>6 水野家系圖、松本領七万石兩郡組々村附 水野様御大變</p> <p>7 倉科諸記録写抄出 倉科所持書付写</p> <p>8 当代記抄 日本外史抜萃</p> <p>9 藩翰譜抄録 群書類從抄録</p> <p>10 宗長手記</p>						
<p>天保年中</p>						
<p>諸記録の集成</p>						
<p>美</p>						
<p>十八</p>						
<p>96</p>		<p>不明 H13 8 6</p>				

財団法人 徳川黎明会 蔵書目録用紙

書	名	年	代	成立(内容)	規格	数量	番号
2	本朝三國志抄録、三河物語抄録						
3	参河後風土記抄録						
4	武德編年集成抄録						
5	同						
6	同						
7	帳中秘策 (三州菅海院 奥係)						
8	花押藪、続花押藪						
9	寛明日記抄録						
10	御年譜附尾抄録 大塚御陣始末之記抄録						
11	列祖成續抄録、本朝武林伝、戸田家之事、 前事後語、西郷先祖彈正左衛門討死之事、 古今武定盛衰記、大坂御陣、陣付伊丹長坂并 花井守田之事、御略記之事						
12	近代城主記抄録、平竿段日次書抜 御年譜三覺、戸田長門守殿公来主付覺 紺珠抄録、おあ人物語						
13	東國紀行、 紹巴富士見道記						

書	名	年	代	成立(内容)	規格	数量	番号
14 藩翰譜統編抄本、武家諫懲記後正抄、諸家系図 北条、梅井							
15 大成武鑑 書版							
16 雜書書拔、野木丸亭隨筆鈔録							
17 若江道明寺矢尾合戦之見書							
18 甲斐文國志抄録							
千代のくれ葉 附録四冊共		文化四年十二月		木沢大淵著で戸田家つ出自を記す戸田家出自等に關する記録の集成校訂御系譜御家譜面誦記録校合之覚戸田家先祖に關する記録を集成	美 美 美	一 五	98 97
木沢氏遺書 全							
木沢氏遺書							
1 戸田家古代系図、校訂御系譜							
戸田御先祖之履歴を考ふる年表							
2 御家譜面誦記録校合之覚							
千世算葉答疑問							
3 尾州參州相尋振覚書							
4 木沢源一郎伺覚、改選系図不可取用ケ各、先祖代々領地之覚、系譜之内御答書三書安本、戸田佐十郎様御身分之考、松本旧説、							
國誌略							

財団法人 徳川黎明会 蔵書目録用紙

書名	年代	成立(内容)	規格	数量	番号
国忌志略		徳川・松平氏関係の命日を日別に記す	美	二	100
田原城主考	天保六年写	戸田氏以来の田原城主の事を記す。戸田忠昌の事	美	二	101
岡崎領主古記	文政十二年写	鎌倉時代以来の岡崎の領主に關する記録	美	一	102
松平記	延享三年写		美	二	103
東照宮御継母君考	天保七年校訂	松平広忠継母に關する事	美	一	104
三河八代記古伝集	天保四年写	松平広忠まじり松平八代のこと	美	一	105
三州大樹寺三記	文政十二年写		美	一	106
三州生邑録	文政十年写	三州で生まれた諸士の名と場所を記す	美	一	107
三河紀聞	文政八年写	戸田家系のことについて三河へ向合させた事	美	一	108
三州尋紀記	天保二年写	戸田家関係のことについて三河へ向合させた事	美	一	109
三州聞書一件	文政十二年写	戸田家先祖に關すること	美	一	110
三河国上野隣松寺記録	文政十年写	当寺の由緒略記古記録等の写	美	一	111
羽豆神社古記	文政十年写	天文二十三年の日次記や系図等を収める尾州知多郡師崎の羽豆神社	美	一	112

財団法人 徳川黎明会 蔵書目録用紙

書名	年次	成立(内容)	規格	数量	番号
高野山記録	文政十年	高野山、石碑や古帳の字	美	一	113
奥郡故事集	文政十年	三州渥美郡の地誌	美	二	114
三河雀	文政十年	宝永四年御油の花翁著、地誌	美	一	115
参河国二葉松	文政六年写 (補遺、文政十年迄)	三河の地誌	美	三	116
三河国古今城望地理志	文政六年写	鳥立弥右衛門貞武の著、松本の史料を基に	美	一	117
地志備考	天保七年	文化九年、平常富著	美	四	118
国郡管轄考	天保四年写	武州幡豆郡東方村今久院と戸田家との往復文書	美	一	119
東方全久院記録	安寛政十、二十年	信州松本の古記録写	美	五	120
本国事記	天保二年写		美		121

1 松本御領分村々高附帳、寛永十八年御定中屋敷附畑之帳、村々水帳年号附帳
御朱印里空印除地年貢寺社書付帳

2 庄内組村々明細帳、埋枵村勘正庄物誌
池田古記、清水村穂所覚書
埋枵村古塚略図を附す

書名	年	代	成立(内容)	規格	数量	番号
信府統記抄録、瑞松寺所蔵書目、東光院 3 搜索三記、清水邸降幡氏之記、倉品氏三記 玄向寺記、淨林寺記、光明院三記、春了寺記 筑摩八幡三記				美	—	122
4 武徳編年集成抄						
5 水野家松本居城始末記						
信濃宮伝	天保三年写		信州松本城主記録、松 本ヨリ近国江道筋並 月国中諸城下方角 道程ノ大郡ツ写 次の浪合記と合本	美	—	123
浪合記	文政十二年写		延言三年の向合せ	美	—	124
大坂冬御陣諸家軍役御尋御答書	文政八年写		戸田家家臣の由緒 書	美	—	125
古出身記	文政十一年写					
参州諸寺院所蔵古証文字	文政六年写					
1 田原彈正宛 加治郷久世兵庫亮信康 判物写二通	文明二十一年 正月十一日		濃美郡大久保村 長興寺所蔵	状	十三	126
2 田原彈正宛 黒川借宿次郎左衛門尉 信秀判物写	〃		〃	状		
3 長興寺侍衣禪師宛 玉栄判物写	明応三年 二月十日		〃	状		

財団法人 徳川黎明会 蔵書目録用紙

書名	年	代	成立(内容)	規格	数量	番号
4 藤原左衛門尉宗光加治郷清友名 寄進状写	明応三年 三月七日	三月七日	長興寺所蔵	状		
5 沙弥全久寄進状写	明応五年 三月七日	三月七日	〃	状		
6 沙弥全久檀那之置文字	明応八年五月三日	五月三日	〃	状		
7 長興寺宛田原左近尉政光判物写	永正十五年 正月三十日	正月三十日	〃	状		
8 長興寺宛上総少判物写	永祿五年 六月十七日	六月十七日	〃	状		
9 長興寺宛朝比奈肥後守元智判物写	五月十日	五月十日	〃	状		
10 加治清友名升本字 <small>(田原の年天納計と加治斗代升)</small>	大永六年 十月十五日	十月十五日	渥美郡赤羽根村 金能寺所蔵	状		
11 新会下藤王寺宛戸田左近尉政光 判物写	永祿四年 十一月十一日	十一月十一日	〃	状		
12 藤王寺宛宗忠判物写	慶長六年 二月十一日	二月十一日	〃	状		
13 あかはね金能寺宛伊奈備前守忠次 寺領寄進状写	文政十一年写	文政十一年	〃	状		
(三河、遠江国寺院所蔵古文書写)						
1 法華經奥書写 <small>(彈正忠藤原憲光記)</small>	明応九年七月	明応九年七月	渥美郡大久保村 長興寺所蔵	美	二十八	
2 長興寺宛本多彦次神康重寄進状写	天正十六年 十一月十五日	十一月十五日	〃	状		
3 大津太平寺宛田原孫四郎宗光寄進状写	大永八年 八月十日	八月十日	渥美郡大津太平寺 所蔵	状		

127

書

名

年

代

成立(内容)

規

格

数

量

番

号

4 戸田孫四郎宗光印判状写

5 孫四郎老光判物写

6 太平寺宛雪齋宗孝書状写

7 戸田三郎九郎忠真判物写

8 太平寺宛戸田金左右衛門手代四名連果状写

9 小松原寺宛甘木氏判物写

10 東觀音寺宛戸田孫四良宗光判物写

11 小松原寺宛野々山助八郎光家判物写

12 小松原山宛田原孫四郎宗光印判状写

13 小松原山東觀音寺宛戸田橘七郎宣成判物写

14 東觀音寺宛今川家朱印状写

15 東觀音寺宛戸田橘兵衛成次判物写

16 東觀音寺宛酒井左衛門尉忠次判物写

17 戸田孫四郎宛直秀判物写

天文五年
二月二十三日

天文十三年
十二月十六日

天文十八年
七月七日

永祿七年
七月八日

慶長六年
九月十二日

大永六年
正月十七日

大永六年
六月十八日

天文四年
九月

天文五年
六月十五日

天文五年
六月十五日

永祿五年
四月十四日

永祿八年
七月五日

永祿八年
七月五日

十一月十四日

太平寺所藏

澁美郡小松原山
所藏

書

名

年

代

成立(内容)

規

格

数

量

番

号

18 戸田孫四郎宗光判物字

19 上宮寺宛今川治部大輔義元判物字

20 笑塚次郎左衛門宛松平広忠判物字

21 大仙寺(復原)宛今川治部大輔義元判物字

22 大仙寺俊恵宛松平次郎三郎元信印判物字

23 大仙寺俊恵宛しんさう書状字

24 渡部平内次宛松平広忠判物字

25 大泉寺宛伊奈備前守忠次寺領寄進状字

26 福嶋左衛門尉宛彈正忠憲光書状字

27 実相坊宛玄蕃頭書状字

28 憲光・玄蕃頭書状字 朱入り(26・27と同じ) 書状

(尾三濃社寺役員料字)

1 尾州羽豆神社棟札字 (願主田原彈正忠憲)

2 同社宝物御太刀圖 三枚 (相書字夫 憲光 三年箱書 戸田忠光 日 作り八元七納心)

大永七年

十二月

天文三十三年
十月十一日

天文十三年
五月十日

弘治二年
六月二十一日

弘治二年

六月二十四日

弘治二年
六月二十四日

四月二日

慶長六年
二月十日

八月二十日

十二月二十三日

文政十一年字

明応九年
八月十二日

明応九年
八月十二日奉納

渥美郡野田村
西円寺所蔵

額田郡大泉寺
所蔵

遠江浜名大福寺
所蔵

羽豆神社蔵

八

128

財団法人 徳川黎明会 蔵書目録用紙

両社様一件書目類

書名	年	代	成立(内容)	規格	数量	番	号
3 参州二連木神明祠棟札写 表裏二枚	天文二十二年 十二月十三日	〃	領主戸田宣光が 神明宮を造立、寄進	状	〃	〃	〃
4 智勝院宛戸田光重手領寄進状写	寛文元年 十一月十六日	〃	美濃國安山 智勝院所蔵	状	〃	〃	〃
5 智勝院宛戸田光重寄附境内之地状写	〃	〃	〃	状	〃	〃	〃
6 戸田光重智勝院境内傍示元事写	寛文五年 五月十一日	〃	〃	状	〃	〃	〃
7 智勝院宛戸田光重手領安堵状写	寛文八年 十一月二十九日	〃	〃	状	〃	〃	〃
8 智勝院宛戸田光重手領安堵状写	天和二年 五月十一日	〃	〃	状	〃	〃	〃
1 松平丹波守内神方新左衛内宛田原八幡宮 社家清谷庄大夫口上之覚見	寛政七年 六月十九日	〃	三州田原片宮八幡宮 (実興さままつる)と 濃美郡大津村今宮 (実光さままつる)の分祠 を松本に勧請するの 一件書類	状	〃	〃	〃
2 右同人宛大津村三嶋明神社社家伴三太夫 口上之覚見	寛政七年 六月二十一日	〃	松本への勧請を 了承したものの 松本城内へ御神靈 の勧請を了承した もの	状	〃	〃	〃
3 右同人宛大津村八王子権現社家中村十左衛 門口上之覚見	〃	〃	八王子権現社内の八幡宮 は戸田家の先祖をまつて あり、子に松本城内へ勧 請することと承した もの	状	〃	〃	〃
4 右同人より田原八幡宮社人・大津村八王子社人 江申談候趣	(寛政七年) 七月二日	〃	両人へ松本城内勧請 を承知するよう依頼し て	状	〃	〃	〃

十三
129

財団 徳川黎明会 蔵書目録用紙

書	名	年	代	成立(内容)	規格	数	量	番	号
5	承合候御事	十一月九日	寛政四年	宗藏が提出した兩社に因る由緒	反横				
6	勸請に付き幕府等への届出有無に因る書付	九月			状				
7	大津村八幡宮等御神体に関する書付				状				
8	大津村八幡宮等御神・日村今宮・仁連木御塚跡御宮の御祭神等についての書付				状				
9	勸請に付き届出方をとり地とするよう申入れた書付				状				
10	勸請につき届出方吉田家に向合させた結果を江戸より申送つてきた書付				状				
11	片宮様 今宮様 一件書付				状				
12	吉田家内申之記				状				
13	吉田家より申入れたの書付				状				
戸田家内係什器画像等絵図									
1	高德院様御画像賛写 二枚	永禄十二年八月替頁		戸田丹波入道惟毅香全香公肖像と菅原舟史の賛を写したもので二連木全久院所蔵			七		130
2	渥美郡大崎村八幡宮棟札写	天正十五年十一月十五日		松平丹波守康長建立の棟札					
3	三州渥美郡大崎村八幡宮御棟札写			神主辻村淡路提出の古棟札写に元禄五年の年付あり	半				

財団法人 徳川黎明会 蔵書目録用紙

書名	年代	成立(内容)	規格	数量	番号
濃州信州寺院絵図文書写 1 美濃国席田郡郡村栗山智勝院 境内図等御墓所図 2 智勝院御本山 墓所図 3 智勝院清水谷墓所図 4 栗山御本山・清水谷御石碑略図寸法 5 智勝院埋葬者覚 6 読誦法花記 并 碑寸法 7 栗尾山満願寺戸帳写 8 埋橋村墓所立塔三図 9 埋橋村墓所平面図	安政五年三月 来る 天保六年 閏七月九日写 元禄十一年 二月	銘 菅原崎 菅原崎の給とも 康長夫人奉納といわれ 了鏡の表摺(鳥居小左衛門 所持)の写 陽谷靈社口 戸田永兼 のこと、光通の撰	菅針叟宗碩の記 した碑文 棟丸様旗の図、寛永 三年三月寺直りもつ 奉心院、瑞光院、 神光院の墓の図と寸法	状 状	十二 131

財団法人 徳川黎明会 蔵書目録用紙

書名	年代	成立(内容)	規格	数量	番号
10 信州饅頭塚村並給図	天保元年	小松村宮坂氏作成			
11 小松、埋橋境、図	天保九年 写				
12 安永九年埋橋郷御墳墓 御再復之図	天明四年 二月	墓所築造の用地 とさう分	横	八	132
三州岩崎村御廟所図面証文					
1 岩崎村御廟所図面					
2 三州渥美郡岩崎村戸田丹波守(全巻) 隠居屋敷図	嘉永二年 九月	戸田光則建			
3 丹波入道惟馨全香墳跡碑文字	文政十三年 九月	岩崎村売主より三連 木全久院宛上加二畝の 売券	状		
4 岩崎村地面売券三写	文政十三年 三月	全久院より郡殿三大夫 外四名宛 右の上畑代 金十兩、代知行金四兩 の受領証	状		
5 土地代金等受領証写	文政十三年 十一月		状		
6 相讓申道代証文之事	嘉永二年 十二月	上岩崎村地主より 全久院宛、戸田家 旧跡への道路として 中二尺、長さ十九間 の土地を売り代金二兩 を受領			

書名	年	代	成立(内容)	規格	数量	番号
7 相讓申道代証文之事	嘉永二年	十二月	上岩崎村地主より 全久院宛、旧跡ま の道路として中二尺 長さ二十六向の畑を 売却、代金二分の受領証 上岩崎村地主より 安江治右衛門外一名宛	状		
8 買上げの土地見分済の証文	嘉永二年	十二月		状		
三州墓所等絵図類						
1 三州渥美郡雲竜山長興寺 御墓所三図	長祿元年	三月五日	戸田輝正と上の年 月日記す 戸田、宗光、宜 光とそれむれある。			
2 三州碧海郡上野郷隣松寺 御墓石摺 (表裏とも二枚)						
3 三州上野誓願寺御塔石銘石摺 (三枚)						
4 三州渥美郡吉田城図	享見政三年	六月	本丸、二ノ丸、東城、 屋敷跡といわれている 場所を示す 境内と寺領(吉田領と 入組)の図、及び末寺名 も記す			
5 三州渥美郡仁連木村 禅曹洞宗全久院境内図写	明和五年	三月	院号と塔の図			
6 三州渥美郡仁連木村 御城跡絵図						
7 二連木村城絵図						
8 全久院寺領絵図						
9 全久院御廟塔写	明暦四年	三月二十三日建	戸田光重が建てた 先祖の石塔、刻まれた 院号と寺名を記す			
10 三州仁連木全久院 御廟所御石塔奉写寸法						

133

書名	年代	成立(内容)	規格	数量	番号
11 石塔図 (全久院)		玉徳院、智勝院、元祖、円通院、瑞光院の石塔			
12 全久院客殿・南山堂向取図		尊像の銘は永禄十三年			
13 全久院ニ御寄附ノ御尊像ノ上ノ銘 釣鐘之銘 写		管銘曰正徳三年 寛文四年(一七六四)年 千七百七十			
14 仁連木全久院山門之棟木ニ有之銘 写		全久院のもの			
15 上梁文 写	明和五年				
16 光寿院様御寄附之品	寛文五年 四月寄附	光寿院の寄附の 品之絵など			
17 戸田平六所持指物 写		複製に戸田四郎兵衛 とあり			
18 三州西尾在西ノ町中村玄碩所持 市場様御舁檀之図					
19 高野山河根宿橋擬宝珠銘摺(二枚)					
20 高野山平等院住持海与 ハリ註文 写	寛永十一年 五月三日	戸田次家臣二名差出 平等院との道具敷 き並まつ事として千両渡り	状		
戸田家墓誌石摺等				六	
1 泰心院様(光慈)		文字は殆んど読めず			
高野山御碑銘石摺 (六枚)		三面を六枚にとり			
光庸様御直書		影友塚の碑文			
2 瑞光院様(光行)高野山御碑銘(四枚)	天保十二年 二月	四枚に分ける			
瑞光院様御棺入御墓誌摺	天保十年 十二月没				

書

名

年

代

成立(内容)

規格

数量

番号

4 神童院様(光年)

高野山御碑銘石摺 (四枚)

故松本城主従五位下松平丹波守

5 藤原光行公墓表 表写

故松本城主従四位下丹波守

6 藤原光年公墓 碑 空木

戸田家関係寺院図等

1 武蔵国東方村全久院 図

2 播州明石人丸山月照寺境内寂照院
殿御墳墓三 図

3 月照寺一件之覚(右図の附属)

4 三州奥殿城主松平石見守領地桑原村
大沢山 竜彦院 堂山平面 図

5 濃州奥竜彦泰寺墳墓 図

6 濃州奥竜彦泰寺祥雲院、清涼院
位牌三 図

7 清涼院殿御再建鎮護五社靈詞
棟札三 写

尤香斎公(光庸)御墓 碑摺物

伊保子夫人(光庸夫人)御墓 碑摺物

天保九年
十月四日

弘化二年
八月

弘化二年
八月

弘化二年
八月

文政八年
正月 写

天保二年
三月 写

天保二年
三月 写

天保二年
三月 写

文政十三年
三月

天保二年
四月 写

天保二年
四月 写

天保二年
四月 写

天保二年
四月 写

安政三年
九月 写

明治十二年
九月 建

明治十年
七月 建

野支塔の碑文
四枚にとり

光庸立

光庸立

光庸立

朱妻あり

全久院ととの目辺
絵 図

由緒や戸田家との
関係を記す

文化四年三月
世井久四郎記

普請割付も記す

墓石の絵、寸法、
字附の品を記す

棟札は寛文十八年
のもの

光則記

光則記

光則記

光則記

光則記

光則記

光則記

光則記

光則記

半 半

七

136

135

137